

埼玉県立

小児医療センターだより

●埼玉県立小児医療センター

〒330-8777 埼玉県さいたま市中央区新都心1番地2

Tel▷048-601-2200(代表) Fax▷048-601-2201 E-mail▷scmc@saitama-pho.jp

URL▷https://www.saitama-pho.jp/scm-c/index.html



埼玉県マスコット「コバトン」

一步踏み出そう！小さな一步でも風景が変わる。

副病院長 小 熊 栄 二



コロナ禍が加速する変化

コロナ禍が人類社会を覆って2年が経過しようとしています。ひとつの疾患がこれほど長期間にわたって深刻な影響を与えることなど経験にはないことでした。コロナ禍は10年分の社会の変化を加速したと言われています。徹底した感染対策によりインフルエンザなど他の感染症が激減し、川崎病や熱性痙攣など感染症に関連する急性疾患の減少が生じています。これは確かに少子化による小児患者の減少を10年間進めた様に思います。

私ども埼玉県立小児医療センターは本年度もコロナ以前の2019年度並みの病床利用率を保ち、外科手術の年間4,000例実施を達成するなど、地域の先生方のご支援により高い稼働をいただいております。しかしながらご期待に添える機能を果たせなくなれば、たちまち少子化の不可避的な力により実績の大幅な低下を見ることは明らかであり、危機感を募らせているところであります。

求められる生産性向上

2021年4月に地方独立行政法人化した当院は組織の定員や予算の執行により幅広い自由を与えられましたが、一方で当院の医療資源の活用についてはより一層の努力を求められるようになってきました。今号の「小児医療センターだより」では入退院支援センターを載せていますが、専門性の高い診療科が多いことから内科外科病床相互の乗り入れが難しかった過去の状況を改め、より効率的な病床の利用が可能になってきています。

日本の勤労者一人あたりのGDPは停滞すること久しく、生産性向上は各所で声高に唱えられています。失われた30年と言われる中でも、われわれ医療従事者が行う作業の量とその質の向上に加えてめざましい技術革新が加わって、生産性は飛躍的に向上しているはずですが、同時に手続きの厳密化、工程の複雑化に費消され、なかなか思うように伸ばせないことを実感しています。

TQM推進室 ー学習し適応する病院組織をめざして

生産性の向上は喫緊の課題となっています。当院ではTQM推進室を設置し、学習し適応する病院組織作りを目指しています。TQMとはTotal Quality Managementの頭文字を取ったもので、製品・サービス、組織の運営、業務プロセス、職員の能力と労働環境、など組織運営に係わる品質全般を改善していくことを目指し、問題の把握、真因の探索、解決手法の試行と評価に定型的な手法を駆使していく経営手法を指します。令和2年度からは院内各職場に合計で40のQCサークルを結成し、コロナ禍の最中にもかかわらず多くの検証できる改善成果が得られました。医療技術の高度化、安全性への強い要望、働き方改革による生産性向上の要請、そしてコロナ禍のような突発的な事態に対応するためには、不断に学習し適応していく病院組織が必要であり、牛歩の様であっても当院もその歩みを止めていません。

埼玉県立小児医療センターだより 第22号 ご案内

- | | |
|--------------------------|---------------------------|
| ○ 副病院長あいさつ..... p. 1 | ○ 作業療法士の紹介..... p. 5 |
| ○ 循環器科の紹介..... p. 2 | ○ お知らせ |
| ○ 病理診断科の紹介..... p. 3 | 祝日開院のご案内、外来診療の予約期間について |
| ○ 入退院支援センターの紹介..... p. 4 | 受診のご案内・病院へのアクセス..... p. 6 |

<診療部門紹介>



循環器科

科長 ほしの けんじ
星野 健司

○診療内容

循環器科は、先天性心疾患・心筋症などの後天性疾患・肺高血圧症・川崎病後の冠動脈疾患・小児の不整脈、などに対する診療を行っています。検査は、心電図・心臓超音波・ホルター心電図・トレッドミル運動負荷試験・心臓カテーテル検査・胎児心エコー・食道エコー・薬物負荷試験など多岐にわたります。また、造影CT・MRI・核医学などによる専門的な検査も行っています。

中心となるのは先天性心疾患に対する診断・治療で、心臓血管外科と綿密な連携を行い、全国でも最高レベルの診断・治療を行っています。移転後は患者さんの増加が著明で、少子化にもかかわらず、カテーテル検査・カテーテル治療・心臓手術は年々増加しています。2021年は、心臓カテーテル検査361件、カテーテル治療119件、心臓手術200件、と過去最多の実績でした。この様に患者さんが増加しているのは、胎児エコーの充実により総合周産期母子医療センターからの新生児入院が増えたこと、集中治療系の病棟が充実し重症患児の受け入れがスムーズになったこと、などが原因と考えられます。

外来体制も改善し、平日の午前・午後すべての時間帯で1～2外来を行っており、新患も毎日受け入れる体制が整っています。救急も、救急診療科と協力していつでも対応できる体制をとっています。

○高度医療

循環器科・心臓血管外科を中心にハートセンターとして、先天性心疾患に対する先進医療・特殊医療にも取り組んでいます。カテーテル治療では従来から行われてい

る、弁拡張術・血管拡張術・コイル塞栓術・ステント留置術などに加え、Amplatzer 閉鎖栓などのデバイスを用いた治療に取り組んでいます。心房中隔欠損・動脈管開存に対するカテーテル治療は認可施設でのみ可能で、当センターも認可施設となっています。治療デバイスは年々新しいものが使用可能となり、治療できる疾患・形態も広がってきています。また、隣接するさいたま赤十字病院との医療連携も行い、成人に対する心房中隔欠損のカテーテル治療は80歳の高齢者まで行える体制が整いました。また医療技術の進歩に伴い移行医療が非常に重要となってきますが、さいたま赤十字病院に成人先天性心疾患外来を開設していただき、スムーズな移行医療が行われています。将来的には、埼玉県立小児医療センターとさいたま赤十字病院が協同で成人先天性心疾患センターを開設することを夢見ています。

○その他

学校心臓検診などの地域医療へも積極的に携わっています。学校心臓検診は、健康づくり事業団・大宮医師会などと協力して、毎年55,000人前後の学童の心電図を判読し、二次検診・三次検診も行っています。

○今後の展望

総合周産期母子医療センター・集中治療系の病棟は充実してきましたが、患者さんの増加・医療技術の進歩に伴い、さらに病床の需要拡大が予想されます。今後、地域医療機関との業務提携を積極的に行い、双方向での医療連携がスムーズに行えるように努力していきます。



旧病院から移設した血管撮影室



新病院で新設されたハイブリッド手術室（心臓手術・カテーテルを同時に行えます）

<診療部門紹介>

病理診断科



科長 なかざわ 中澤 あつこ 温子

○病理診断はチーム医療による最終診断です

病気の適切な治療のためには適切な診断が必要です。消化器・肝臓科、血液・腫瘍科といった診療科の医師（臨床医）が診察や検査結果から行う診断は「臨床診断」と呼ばれます。一方「病理診断」は、病理診断科の医師が行うもので、最終診断として大きな役割を果たします。病理検査室（ISO15189 認定番号 RML02240）では、臨床検査技師が患者さんの体より採取された組織や細胞から顕微鏡用のガラス標本や電子顕微鏡用の標本を作製しています。この標本を顕微鏡で観察して病理診断を行う専門の医師が病理医です。病理医は、標本を見るだけでなく、内科系、外科系の臨床医、放射線科医からの情報や染色体・遺伝子を含む臨床検査の結果も併せて総合的に判断し、病理診断を行っています。

病理診断には以下のようなものがあります。

- ・細胞診断（脳脊髄液、尿、胸水、腹水などの細胞）
- ・組織診断（生検・手術で得られた組織）
- ・手術中の迅速診断
- ・病理解剖

病理診断は主治医に報告され、治療に生かされます。病院に病理医がいることは、より良質の医療を提供することにつながります。

○当センターの病理医は「こどもの病気」の病理診断を専門としています

病理診断の中にも診療科と同じように専門領域があります。こどもの病気は、病気の成り立ちや種類がおとなとは異なるため、「小児病理」と呼ばれる専門領域となっています。こどもの病気を専門とする病理医は少なく、大学病

院にもいないことがあるため、日本中から相談（コンサルテーション）を受けています。特に、小児がん、こどもの腸や肝臓の病気などは、迅速かつ正確な診断が治療方法を決めるためにとても大切で、特殊な染色や遺伝子解析が必要なこともあります。どうぞお気軽にこどもの病気の病理診断についてご相談ください。担当医の先生からの依頼があれば、病理外来で患者さんやご両親に直接病理診断についてお話すこともできます。

○小児がんのゲノム医療を推進しています

当センターはがんゲノム医療連携病院として、保険診療でがん遺伝子パネル検査が受けられる病院です。院内だけでなく、院外からも小児がんの患者さんのがん遺伝子パネル検査を受け付けています。詳しくは「ゲノム医療外来」のご案内を参照してください。このパネル検査には腫瘍の組織標本が必要で、当センターでは病理医が病理診断を確認してから検査に提出しています。検査結果については血液・腫瘍科の医師が、埼玉県立がんセンターや国立成育医療研究センターと連携して専門家会議で検討し、患者さんにお伝えします。

○「病理診断」についてもっと詳しく知りたい方へ

日本病理学会

「病理診断を知っていますか？」

<https://pathology.or.jp/ippan/pv-171211.html>

「おしえて！病理のはなし」

<https://pathology.or.jp/ippan/oshiete.html>

「病理診断の特色ならびに病理診断を病理医から直接お聞きになる意義について」

<https://pathology.or.jp/ippan/outpatient-01.html>

	2018	2019	2020	2021
組織診断	1444	1525	1396	1650
迅速診断	66	60	92	92
細胞診断	456	451	425	471
電子顕微鏡	105	80	99	143
病理解剖	14	10	13	12

年間病理診断数（件）



<看護部紹介>

入退院支援センター

入退院支援センター兼在宅支援相談室 看護師長 ^{はしもと} 橋本 ^{じゅんこ} 淳子

令和3年4月から新しく開設された入退院支援センター（以下センターとする）についてご紹介します。

当センターの設置目的は2つあります。1つは、入院前からお子さん・ご家族が抱える入院生活や療養上の不安に対する支援体制の強化です。2つ目は、地域→病院→地域の流れを円滑にするために、地域医療機関からご紹介いただいたお子さんを、速やかに受け入れられるよう調整を図ることです。

1つ目の役割である入院前支援は、ご家族からお子さんの日頃の様子をお伺いしたり、入院生活や手術・検査に関する説明を行っています。対象は、手術や検査を目的として入院する、外科系診療科および一部の内科系診療科のお子さんご家族です。入院前支援の機会は3回あり、①入院予定が決定した外来受診日、②術前検査・麻酔科受診日、③入院当日に面談し、毎日40件ほど実施しています。

入院決定日は生活歴（基礎情報用紙）、予防接種歴等の必要書類の記入方法について説明します。術前検査・麻酔科受診日にはそれらの書類を受け取り、個別にお子さんの日常生活上の留意点やご家族の心配事等を確認しています。例えばアレルギーに対応した食事に配慮が必要な場合や、栄養状態が気になる方等は栄養士に引継ぎ、相談の場を設ける等、他職種との調整を行います。また、病棟での過ごし方や手術に関する注意事項等の説明を行います。入院当日はお子さんやご家族の健康状態、術前の注意事項や持参した必要書類等に不備がないか確認を行い、担当診療科や病棟へ引継ぎます。

最近では入院日数が短く、入院当日に手術を受け翌日に退院するお子さんも少なくありません。ご家族は小さいお子さんが入院されるというだけでも辛い思いがあることに加え、感染対策による面会時間の制限を実施させていただいていることもあり、心配は尽きないと思います。そのような状況で病気に関する説明を受け、同意書を作成し、様々な書類や持ち物、手術を受けるまでの注意事項が伝えられることで負担に感じられる方もいると思います。センター設置前は、外来看護師が診療の補助と並行して、説明や質問への対応を行ってききました。開設後は、専用の窓口で対応することができるようになり、一層個別の相談に応じやすくなりました。当初は、入院当日に手術予定の方が食事の中止時間以降に飲食したため、手術開始時間を変更することが多々あり、課題となっていました。統一した説明と説明用紙の工夫により大幅に減少させることができました。安全に治療を受けられ退院できることを大前提として、お子さんやご家族の不安が最小限に療養できるよう、引き続き入院前支援に努めたいと思います。

2つ目の役割である病床調整については、当院には小児救命救急センター、総合周産期母子医療センター、がん拠点病院等の機能があり、高度医療の需要に対応できるよう準備を整えておくことが不可欠です。そのため、入退院支援センター看護師長を軸に病床調整カンファレンスを毎日開催し、適時受け入れが可能となるよう、重症系病棟・一般病棟・感染症病棟・救急部門それぞれと連携し、調整を図っています。全体の病床調整については、入院病棟統括医師を中心とした運営会議を毎月開催し、午前退院・午後入院の推奨や、病棟再編による柔軟な病床運用を進め、より利用しやすい病院づくりに取り組んでいます。

今後でも多職種連携の範囲を広げながら、病気を抱えたお子さんご家族が安心して入院することができるよう支援していきたいと考えています。開設後間もなく行き届かない点もあるかと思いますが、どうぞよろしくお願いいたします。

*写真掲載についてご家族 スタッフ
の了承を得ています。 奈雲和子、寺山亜弥、小関淳子



入院前支援の様子



病床調整カンファレンスの様子



術前食の説明用紙

<コ・メディカル部門紹介>

作業療法士

保健発達部 おかだ よういち
岡田 洋一

当センターには子どもの発達支援と保健の機能を担う保健発達部があり、理学療法、作業療法、言語聴覚療法といったリハビリテーションのセラピストや臨床心理士、視能訓練士といった専門職が配属されています。今回は作業療法をご紹介します。

1. 作業療法とは

作業療法は病気や障害によって、日々の活動や作業に困難が生じている人に対し、個々のライフステージや生活環境において適応した生活が送れるよう治療や支援を行います。子どもの場合、発達障害などの先天的な場合、外傷や脳炎などの後天的な場合など、障害を受ける経緯や症状はさまざまですが、人として発達過程にあることを念頭に置き、個々の特性に応じた作業療法を実施します。

2. 当センターにおける作業療法

作業療法士は現在常勤5名で、外来、多職種外来および入院において診療を行っています。

2-1. 外来診療

主な対象疾患は、自閉症スペクトラム障害、注意欠陥多動障害、知的発達症などの発達障害、そしてソトス症候群、コストロ症候群等の遺伝疾患、脳性麻痺や神経・筋疾患といった運動障害などです。

・自閉症スペクトラム障害に対する作業療法

作業療法の対象の中で最も多い疾患・障害は自閉症スペクトラム障害です。多くの場合「言葉の遅れ」を主訴とする就学前の幼児が受診されます。言葉の発達の基盤となるコミュニケーションの発達や遊びによって養われる概念形成などの発達に遅れが生じ、言語発達に影響することがあります。作業療法では、養育者から家庭での様子をうかがい、子どもの行動を観察し、可能な場合に発達検査を行い、発達特性を踏まえた上で治療活動（＝遊び活動）を選択し提供します。主には感覚運動活動を用い、コミュニケーション欲求や新しい遊びが獲得されるように援助し、家庭や社会集団における生活のしやすさに結び付けていきます。

・脳性麻痺に対する作業療法

理学療法は子どもの基本的な姿勢や運動の学習がなされるよう治療します。作業療法は、それらを活用し日常

生活活動に応用し、子どもが行いたいことや生活の中で要求されることが出来るよう援助します。衣服の着脱、排泄、食事といった日常生活活動やハサミ・鉛筆など学業遂行に必要な操作能力を促します。また乳幼児期の遊びは子どもにとって重要な発達の手段でもあり栄養素でもあります。作業療法は子どもの発達特性に応じて、子ども自身が楽しみながら遊び、そして多くの機能を獲得し、個々の生活環境で適応していけるよう支援します。

・その他

上記の疾患の他、上肢骨折後の神経障害や分娩麻痺など整形外科疾患に対する作業療法を実施しています。

2-2. 多職種外来

チーム医療の一員として院内の他職種と連携を図り以下の多職種外来に参加しています。

- ①発達遅滞幼児のスクリーニングを行うアセスメント外来
- ②食べることに困難がある幼児を評価するもぐもぐ外来
- ③痙縮を評価し治療指針を検討する痙縮治療外来
- ④ダウン症候群総合支援外来
- ⑤出生体重が1500g未満児の発達評価や家族支援を行うつくしんぼ外来
- ⑥保護者向けに子どもの特性理解や関わり方についての講座「早期子育てサポート事業」



作業療法室の様子

2-3. 入院診療

対象疾患は①脳血管障害や脳腫瘍などの脳外科疾患②脳炎や筋疾患などの神経疾患③白血病や腫瘍などの小児がんなどが挙げられます。

・小児がんに対する作業療法

小児がん治療が行われている乳幼児を中心に、長期入院が運動機能やコミュニケーション、日常生活動作、認知機能等の発達の妨げとならないよう遊び活動を用い発達支援を行い、退院後の生活がスムーズに送れるよう心身機能の維持や回復を支援します。

作業療法は病気や障害があっても子どもが健やかにこころとからだを育んでいける手助けができるよう今後も努めていきます。

お知らせ

●令和4年度 祝日開院のお知らせ

外来を通常診療します。

5/3	憲法記念日
7/18	海の日
* 令和5年 1/9	成人の日

外来診療の予約期間について

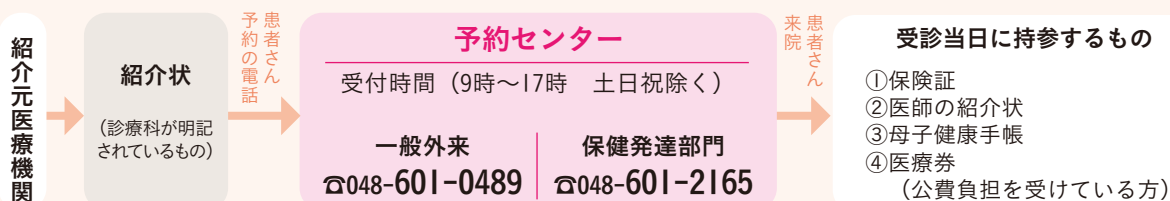
外来受診日の3か月前から予約を受け付けておりますが、一部の診療科では
6か月前から予約が可能となりました。

6か月前から予約可能な診療科(初診・再診ともに)

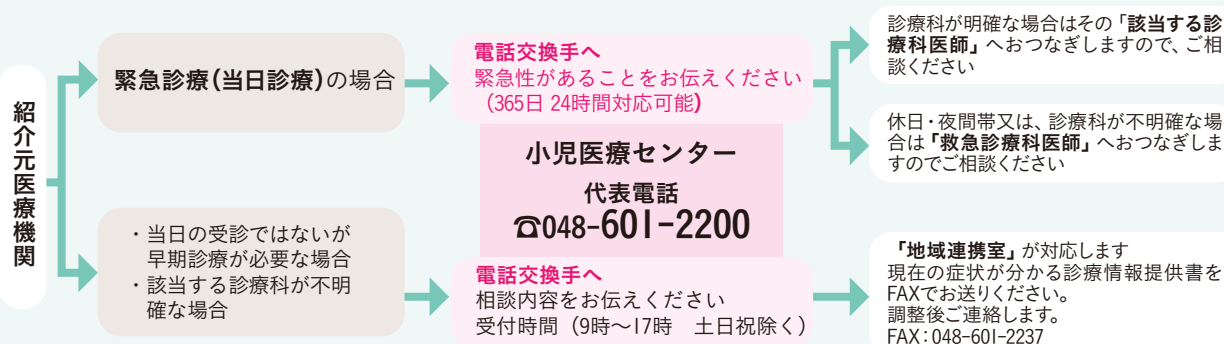
- | | | | |
|----------|-----------|--------|---------------|
| * 新生児科 | * 消化器・肝臓科 | * 腎臓科 | * 感染免疫・アレルギー科 |
| * 血液・腫瘍科 | * 循環器科 | * 小児外科 | * 脳神経外科 |
| * 耳鼻咽喉科 | * 皮膚科 | * 移植外科 | * 小児歯科 |

医療機関の皆様へ 受診のご案内

①患者ご家族からのご予約



②医療機関の先生からのご予約・お問い合わせ



病院へのアクセス



■公共交通機関をご利用の方

- ・JR 京浜東北線、宇都宮線、高崎線「さいたま新都心駅」から徒歩約5分
 - ・JR 埼京線「北与野駅」から徒歩約6分
- ※歩行者用デッキを点線に沿ってお進みください。

■お車をご利用の方

- ・駐車場は有料になります。
 - ・機械式駐車場には車両のサイズの制限があります。
- ※ご利用の時間帯によっては、車両が集中し、入庫まで大変お時間がかかることが予想されます。
できるだけ、公共交通機関のご利用をお願いいたします。

埼玉県立小児医療センターだより第22号

令和4年3月発行

編集・発行 埼玉県立小児医療センター
地域連携・相談支援センター